

第Ⅱ章 史跡及び名勝の概要

1 指定に至る経緯

- 昭和28年 12月 長谷川家所蔵「紙本墨書氏郷茶日記」が松阪市指定有形文化財に指定される。
- 昭和37年 『江戸商業と伊勢店』（東京都立大学教授 北島正元 著）の刊行により、長谷川家が所蔵する商業資料が紹介され、同家が注目され始める。
- 昭和39年 1月 長谷川家所蔵「絹本淡彩離合山水図 伊孚九筆」が重要文化財に指定される。
- 昭和54年 『松阪市史 第6巻 文化財編』が刊行され、長谷川家住宅等が文化財として掲載される。これ以降、長谷川家と松阪市の間で建造物、古文書等の文化財指定について継続して協議されるようになる。
- 昭和58年 11月 『松阪市史 第12巻 史料篇 近世(2)経済』に長谷川家資料の一部が掲載され資料化される。
- 昭和60年代～ 長谷川家の好意により、文化の日を中心に年数日程度の特別公開を実施。
- 平成10年 3月 『三重県史 資料編 近世4（上）』に長谷川家資料の一部が掲載され資料化される。
- 平成20年 松阪市教育委員会、長谷川家第13代当主の許可を得て、文化庁補助事業として、平成22年度までの予定で、同家が所蔵する文書を対象とする調査に着手する。（のちに平成24年度まで調査期間を延長）
- 平成23年 7月 長谷川家第14代当主、松阪市長に対し土地及び建物の寄贈を申出る。
- 平成23年 9月 寄贈後の長谷川邸活用について検討するため、「松阪市まちなか歴史文化活用プロジェクト委員会」が発足する。
- 平成23年 12月 まちなか歴史文化活用プロジェクト委員会、松阪市長に対し土地及び建物の活用案を含めた提言書を提出する。
- 平成24年 3月 平成24年度当初予算に長谷川家の建物・土地・所蔵品を対象とした文化財調査費を計上する。
- 4月 松阪市教育委員会、長谷川家の許可を得て、平成26年までの予定で、建物及び庭園を対象とする調査に着手する。
- 8月 長谷川家と松阪市長、土地及び建物等の寄贈について合意したことを発表する。
- 平成25年 3月 長谷川家と松阪市長、土地及び建物等の寄贈に係る覚書に調印する。
『三重県松阪市 長谷川家文書調査報告書』刊行。
- 4月 長谷川家の土地及び建物・史料等が松阪市に寄贈される。
平成29年度までの予定で長谷川家旧蔵史料の調査に着手する。
- 5月 松阪商人長谷川治郎兵衛家旧宅が松阪市指定史跡に指定される。三重県

指定文化財候補として推薦。

7月 事前申込制による特別公開開始。

12月 三重県文化財保護審議会で「史跡及び名勝」、「有形文化財(建造物)」として答申される。

平成26年 3月 『旧長谷川家住宅調査報告書』刊行。

10月 シンポジウム「長谷川家と豪商のまち松坂」開催

平成27年 3月 三重県指定有形文化財(建造物)、三重県指定史跡及び名勝に指定される。

平成28年 7月 重要文化財(建造物)に指定される

2 指定の状況

(1) 指定告示

ア 名称

長谷川氏旧宅

イ 指定年月日

平成27年3月5日(三重県教育委員会告示第8号)

ウ 所在地

松坂市魚町1653番、殿町1317番1、殿町1317番18



第3図 指定範囲 名称

(2) 指定概要とその範囲(指定時調査報告書より)

旧松坂城城下町のなかで大手通りに近い松阪市殿町・魚町に所在する、伊勢商人長谷川家の屋敷地である。江戸時代から近代まで建物の増築や敷地の拡大などを重ねながら形成されてきた。平成25年4月に長谷川家より松阪市に寄贈され、現在は松阪市の所有となっている。

魚町通りに面した敷地東側は、江戸時代から店舗兼住宅や蔵、茶室などからなる建物群とそれに伴う小規模な庭が存在し、その敷地の背後にあたる西側は明治期に新たに拡張され、回遊式の池泉庭園や、離れや茶室及びそれに伴う庭が造られた。全国的にも有数であった伊勢商人の屋敷地がまとまって残されている事例は県内唯一であるとともに、長谷川家に関する豊富な文書等もほぼ完全に保存されており、歴史的な履歴も明確にたどることができる、貴重な史跡である。また、屋敷地の拡大に応じて造られた多様な庭園は、建造物群とともに豊かな景観を作り出しており、名勝としての価値は高い。

(3) 指定に至る調査成果

ア 長谷川家資料調査

平成20～24年度の5ヶ年で古文書、書籍類の調査を実施し平成25年3月に長谷川家文書調査報告書が刊行された。また、2次調査として平成25～29年度に長谷川家資料調査を実施し、平成30年3月に長谷川家資料調査報告書が刊行された。

イ 建物調査に伴う庭園調査の実施

平成23年、所有者からの寄贈に係る打診を受け、松阪市は平成24・25年度の2ヶ年で建築と庭園の詳細調査を実施することとなった。調査は奈良文化財研究所に委託した。この調査の成果は『旧長谷川家住宅調査報告書』としてまとめられ、平成26年3月に刊行された。

ウ 破損状況調査の実施

平成27年度に全ての庭園構成物を対象に樹木、石造物、水系、排水等の破損状況の把握のために調査を実施した。

(4) 指定地の状況

所有者・管理者：松阪市

住所：三重県松阪市殿町1340番地1

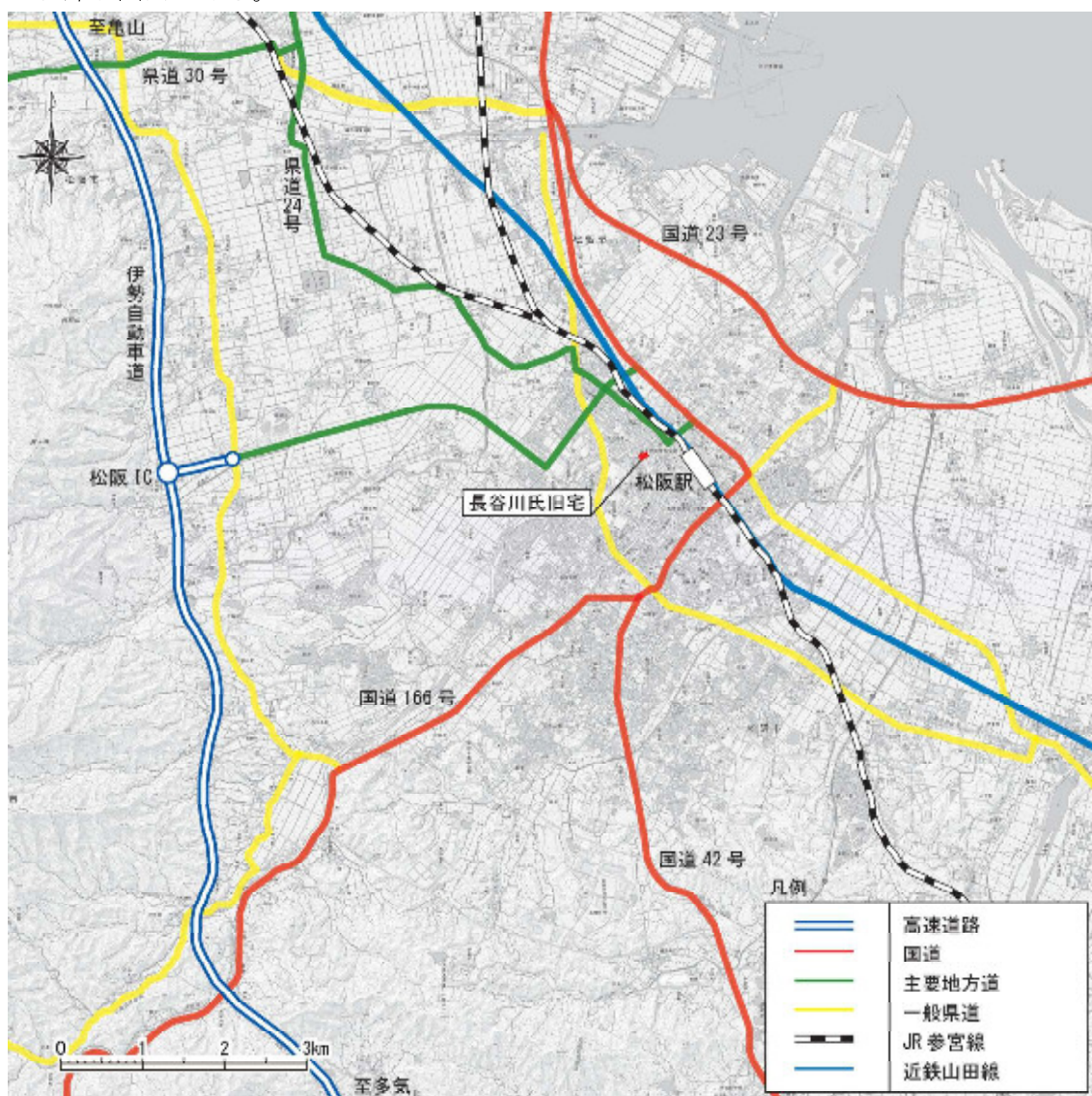
3 史跡及び名勝をとりまく環境

(1)位置

史跡及び名勝長谷川氏旧宅のある松阪市は、三重県のほぼ中央に位置し、北は津市、東は伊勢湾、南は明和町・多気町・大台町、西は奈良県に接している。

長谷川氏旧宅は、この松阪市の中心市街地にあり、近くには松阪市役所・松阪市民病院等公共施設や商業施設・住宅等が密集している。

広域アクセスは、車の場合、伊勢自動車道松阪インターチェンジから県道松阪第2環状線、国道166号・42号等を経由するルートがある。また、鉄軌道ではJR東海紀勢本線及び近畿日本鉄道山田線の松阪駅が最寄駅で、松阪駅までは名古屋から約70分(JR利用)、大阪から約90分(近畿日本鉄道特急利用)である。松阪駅から長谷川氏旧宅までは徒歩で約15分であるが、駅からのバスの便もある。アクセス条件は良好で、近郊の大都市からは、日帰り圏内にある。

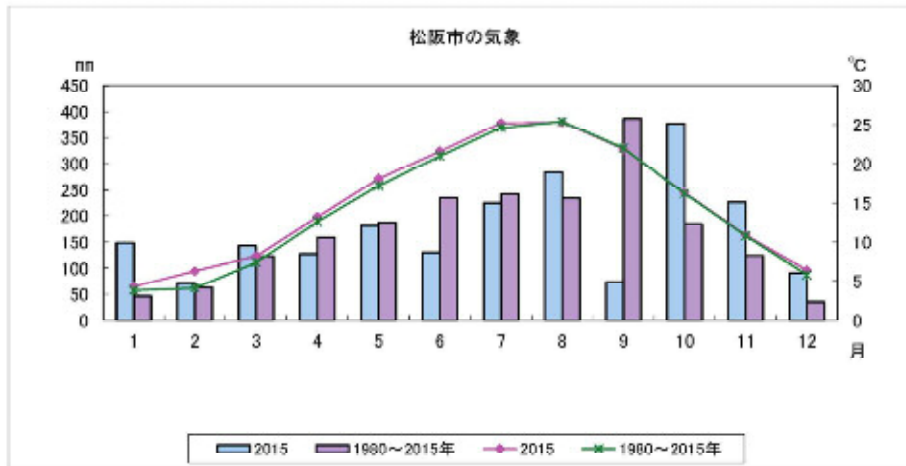


位置図

(2) 自然環境

ア 気候

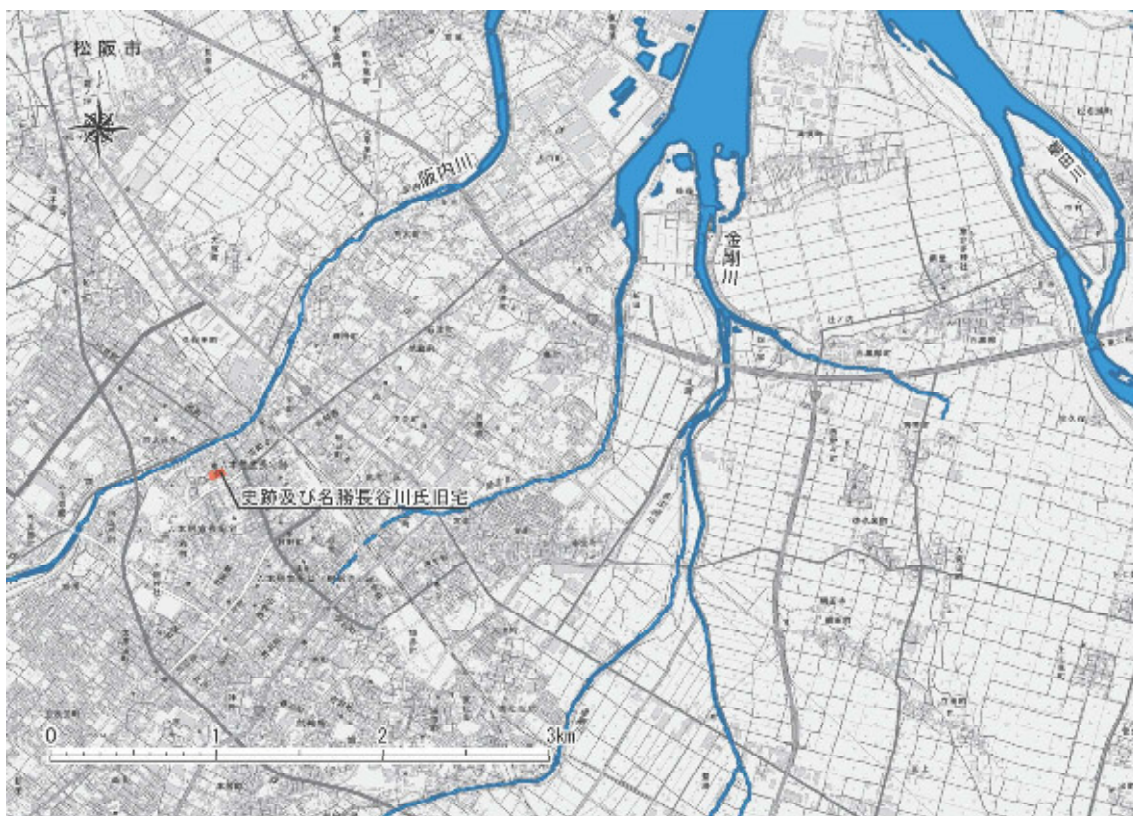
史跡及び名勝長谷川氏旧宅のある松阪市の気候は、夏季に雨が多く、冬季に晴天が続く東海型気候区に属し、年間を通じて温暖である。月間平均気温をみると、7・8月で25℃、12・1月では5℃で、降雪をみることは稀である。



松阪市の気象 (史跡松坂城跡保存管理計画書より抜粋)

イ 水系

松阪市の水系は、松阪市域の南部・西部の山間地から北流する橿田川・金剛川・阪内川等が伊勢湾に流れ込んでいるが、史跡及び名勝長谷川氏旧宅はこの阪内川の右岸に位置している。



水系図

ウ 地形

松阪市域は北部から東部にかけては平野、南部は丘陵地、西部は山地といった大略の地形区分ができる。史跡及び名勝長谷川氏旧宅は、市の北東部の平野の平坦な箇所にある。

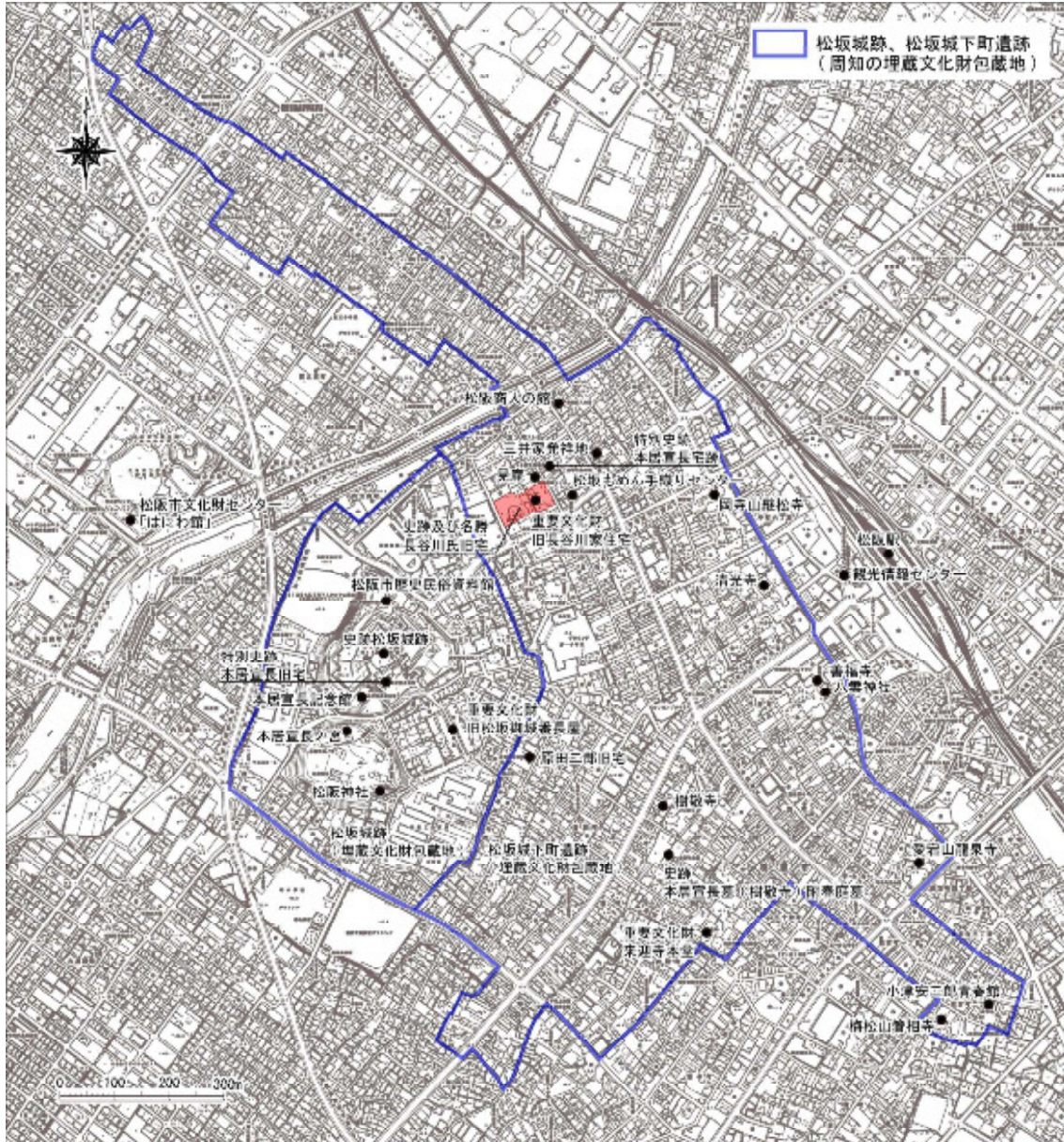
(3) 社会環境

史跡及び名勝長谷川氏旧宅は松阪市の中心市街地にあり、周辺の土地利用は商業地域や住宅地となっている。また周辺には数多くの歴史的文化的観光レクリエーション施設が分布する。

城下町あるいは商人町、宿場町として発展した松阪市は、本居宣長といった著名人を排出するという土地柄の反映もあって、歴史的文化的環境に恵まれており、観光資源として史跡松坂城跡や本居宣長記念館、旧松坂御城番長屋、歴史民俗資料館、松阪もめん手織りセンター、松阪商人の館などが市街地に分布する。また、市街地周辺では、射和・中万のまち並み、伊勢山上、阿坂城跡、大河内城跡等をはじめ、朝田寺、浄眼寺等の古

利、史跡が点在する。

この他、みえこどもの城や森林公園、海浜レジャー場として潮干狩り・たて干し・海水浴が楽しめる松名瀬海岸等がある。また、祭りでは春の初午大祭、宣長まつり、夏の祇園祭り、秋の氏郷まつりなどの他、地域色豊かな祭事やイベントが四季を通じて開催されている。

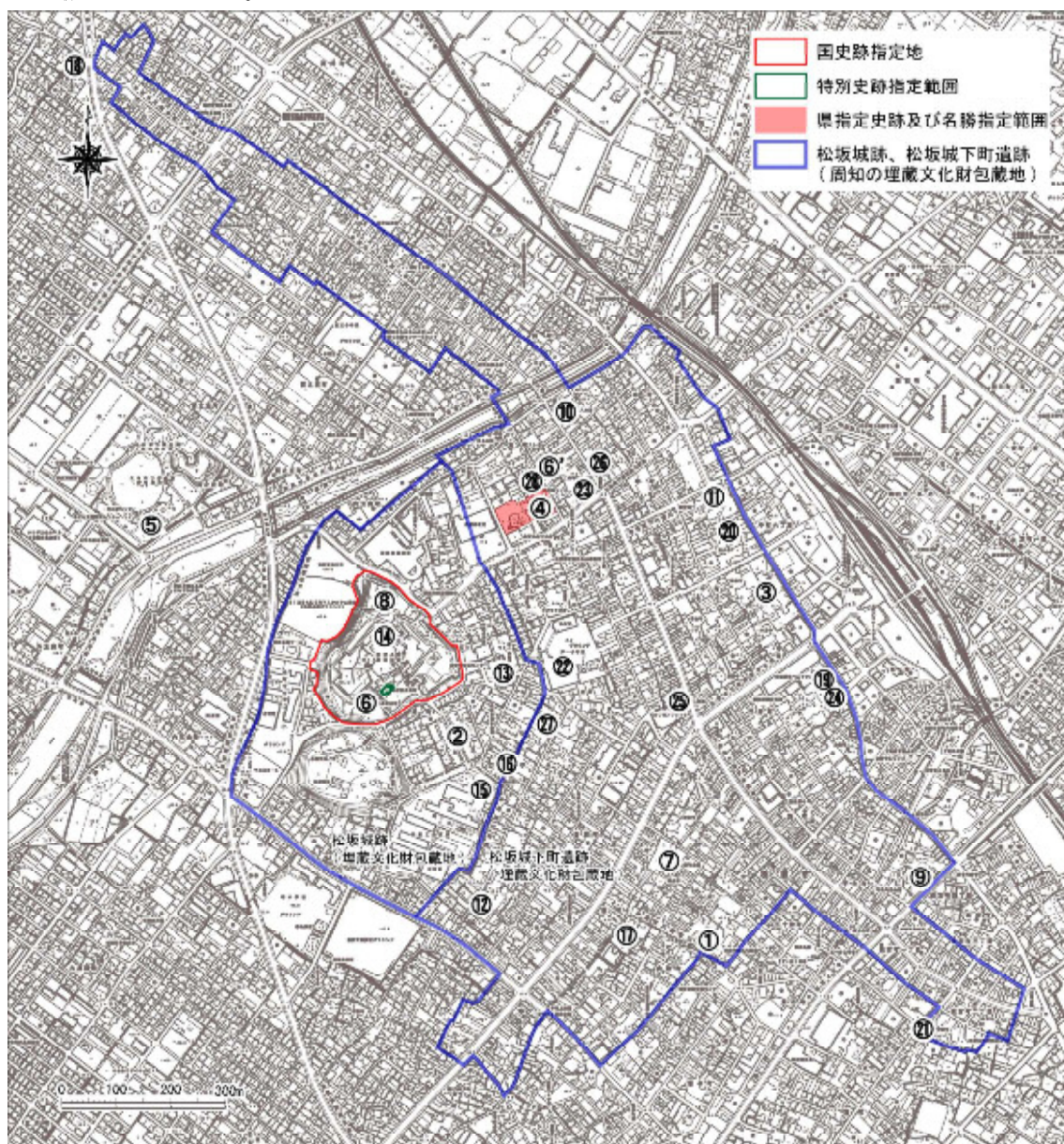


観光資源分布図

(4) 歴史的環境

松阪市は、旧石器時代から人々が活動していたことが様々な遺跡からうかがわれるが、弥生後期頃から古墳時代前期頃の土器の分布に示される東日本地域の西端に位置し、学術的に貴重な古墳等の分布も多い。

松阪の名は、天正12年(1584)蒲生氏郷が近江国日野より松ヶ島へ入封し、天正16年(1588)には四五百森へ城を築いて、ここを「松坂」と命名したことはじまる。日野や大湊の商人の招致、参宮街道の移し替え、楽市楽座の公認などを進めて、城下町の基礎が整備されていった。



指定文化財分布図

※図中番号は次ページ長谷川氏旧宅周辺の指定文化財等一覧表に対応

長谷川氏旧宅周辺の指定文化財等一覧表

平成30年3月現在

| 地図番号 | 指定 | 種別 | 名称 | 員数 | 時代 | 所在地/所有者等 |
|------|----|-----------------|--|---------------------------------------|-------------|-------------------------|
| ① | 国 | 建 | 来迎寺本堂 | 1棟 | 江 | 白粉町/来迎寺 |
| | 県 | 書 | 紙本墨書 真盛自筆消息 二月十七日盛音坊あて | 1幅 | 室 | |
| | 市 | 書 | 北畠具教制翰 | 1幅 | 室 | |
| | 市 | 建 | 来迎寺裏門 | 1棟 | 江 | |
| | 市 | 史 | 角屋七郎兵衛等供養碑並びに松本駝堂墓 | 2基 | 江 | |
| ② | 国 | 建 | 旧松坂御城番長屋 東棟 西棟 | 2棟 | 江 | 殿町/法人 |
| | 県 | 建 | 御城番屋敷 土蔵 | 1棟 | 江 | |
| | 国 | 工 | 太刀 無銘(伝国俊) 附 糸巻太刀拵 | 1口 | 鎌 | |
| ③ | 国 | 彫 | 木造阿弥陀如来坐像 | 1躯 | 鎌 | 中町/清光寺 |
| | 市 | 彫 | 木造観音菩薩坐像 | 1躯 | 鎌 | |
| | 市 | 彫 | 木造勢至菩薩坐像 | 1躯 | 鎌 | |
| ④ | 国 | 建 | 紙本墨書蒲生氏郷茶日記 | 1幅 | 桃 | 魚町・殿町/松阪市 |
| | 県 | 史 | 旧長谷川家住宅 長谷川氏旧宅 | 8棟 4688.40㎡ | 江~大 江~近代 | |
| ⑤ | 国 | 考 | 三重県宝塚1号墳出土品 | 271点 | 古 | 外五曲町/松阪市文化財センター |
| | 国 | 国登 | 松阪市文化財センター (旧力ネボウ綿糸松阪工場綿糸倉庫) | 1棟 | 大 | |
| | 県 | 考 | 常光坊谷4号墳出土品 | 6種73点 | 古 | |
| | 市 | 考 | 分れ谷遺跡出土石包丁 | 1点 | 弥 | |
| | 市 | 考 | 佐久米古墳群出土仿製鏡・勾玉 | 8点 | 古 | |
| | 市 | 考 | 八重田古墳群出土品 | 52種225点 | 古 | |
| ⑥ | 国 | 特史 | 高田2号墳出土埴輪 | 4点 | 古 | 宅跡のみ⑥'とした 殿町/本居宣長記念館 |
| | 国 | 特史 | 本居宣長旧宅・同宅跡 | 一 | 江 | |
| | 国 | 書 | 本居宣長稿本並関係資料 附 本居宣長自画像(着色)自讃 四十四才像 並 六十一才像 | 467種 1949点 | 江 | |
| | 国 | 国登 | 鈴屋遺蹟保存会旧事務所 | 1棟 | 明 | |
| | 国 | 国登 | 鈴屋遺蹟保存会倉庫 | 1棟 | 明 | |
| | 国 | 国登 | 鈴屋遺蹟保存会正門 | 1棟 | 明 | |
| | 国 | 国登 | 鈴屋遺蹟保存会塀 | 1棟 | 明 | |
| | 県 | 書 | 本居宣長関係資料 | 19種30点 | 江 | |
| | 県 | 書 | 大淀三千風遺墨並びに関係資料 附一柳亭贈手文庫 | 72点附1点 | 江 | |
| | 市 | 書 | 紙本墨書蒲生忠三郎宛安堵状 | 1幅 | 桃 | |
| | 市 | 書 | 紙本墨書蒲生一門自筆短冊 | 10葉 | 室~江 | |
| | 市 | 書 | 紙本墨書蒲生貞秀自筆短冊 | 1幅 | 室 | |
| | 市 | 書 | 紙本墨書蒲生貞秀自筆詠草 山王法楽 | 1幅 | 室 | |
| | 市 | 書 | 紙本墨書蒲生貞秀自筆詠草 | 1幅 | 室 | |
| | 市 | 書 | 宗祇法師加筆 | 1幅 | 室 | |
| | 市 | 書 | 紙本墨書蒲生秀行自筆短冊 | 1幅 | 江 | |
| | 市 | 書 | 大淀三千風関係資料 | 1点 | 江 | |
| 市 | 典 | 奉納本古事記伝 附本居宣長書簡 | 46冊 附1巻 | 江 | | |
| ⑦ | 国 | 史 | 本居宣長墓(樹敬寺) 附春庭墓 | 2基 | 江 | 新町/樹敬寺 |
| | 県 | 彫 | 木造地藏菩薩立像 | 1躯 | 鎌 | |
| ⑧ | 国 | 国登 | 松阪市立歴史民俗資料館 (旧飯南郡図書館) 本館 | 1棟 | 明 | 殿町/松阪市立歴史民俗資料館 |
| | 国 | 国登 | 松阪市立歴史民俗資料館 (旧飯南郡図書館) 倉庫 | 1棟 | 明 | |
| ⑨ | 市 | 有 | 射和輕粉関係資料 | 34種136点 | 江~昭 | |
| ⑩ | 県 | 建 | 三門 | 1棟 | 桃 | 愛宕町/龍泉寺 |
| | 県 | 建 | 旧小津家住宅 | 4棟 | 江 | |
| ⑪ | 市 | 史 | 旧小津清左衛門家 | 宅地2筆 庭2カ所 | 江 | 本町/松阪市 |
| | 県 | 繪 | 普賢延命菩薩像 | 1幅 | 室 | |
| | 県 | 繪 | 紙本着色曾我蕭白筆 雪山童子之図 | 1幅 | 江 | |
| | 県 | 繪 | 絹本着色兩界曼荼羅図 | 2幅 | 室 | |
| | 市 | 建 | 繼松寺書院 | 1棟 | 江 | |
| | 市 | 建 | 繼松寺鐘樓 | 1棟 | 江 | |
| | 市 | 工 | 銅鐘 辻越後守重種作 | 1口 | 江 | |
| | 市 | 工 | 銅製香炉 銘鶴天寿書 | 1基 | 江 | |
| | 市 | 工 | 銅燈籠 辻越後守重種作 | 1基 | 江 | |
| | 県 | 歴 | 岡寺版集帖板木並びに関係資料 | 集帖1種4編37帖 集帖板木158枚 墨帖目録1冊 眞名海屋書簡1通 | 江 | |
| ⑫ | 県 | 工 | 刀 銘村重 | 1口 | 室 | 殿町/個人 |
| | 市 | 工 | 槍 銘勢州松坂住兼房作 | 1本 | 江 | |
| ⑬ | 県 | 古 | 紙本墨書 西黒部文書 | 888点 | 江~明 | 殿町/郷土資料室 |
| | 市 | 古 | 法田文書 | 711種1200点 | 室~明 | |
| ⑭ | 国 | 史 | 松坂城跡 | 一 | 近世 | 殿町/松阪市 |
| | 県 | 史 | 松坂城跡 | 一 | 桃 | |
| ⑮ | 市 | 建 | 旧三重県立工業学校製図室 | 1棟 | 明 | 殿町/松阪工業高校 |
| ⑯ | 市 | 建 | 原田二郎旧宅 | 1棟 | 江~明 | 殿町/松阪市 |
| ⑰ | 市 | 彫 | 木造阿弥陀如来立像 | 1躯 | 室 | 白粉町/常教寺 |
| ⑱ | 市 | 彫 | 木造阿弥陀如来坐像 | 1躯 | 南 | |
| ⑲ | 市 | 彫 | 木造薬師如来坐像 | 1躯 | 南 | 日野町/善福寺 |
| ⑳ | 市 | 繪 | 絹本着色仏涅槃図 | 1幅 | 鎌 | 中町/龍華寺 |
| ㉑ | 市 | 繪 | 千方牛和尚図 曾我蕭白筆 | 1幅 | 江 | 愛宕町/菅相寺 |
| 市 | 古 | 石造天神森之碑 本居宣長撰 | 1基 | 江 | | |
| ㉒ | 市 | 繪 | 絹本着色 臥 宇田菰野筆 | 1点 | 昭 | 殿町/市立第一小学校 |
| ㉓ | 市 | 繪 | 絹本着色 梁 宇田菰野筆 | 1点 | 昭 | 本町/市産業振興センター |
| ㉔ | 市 | 工 | 八雲神社神輿 | 1基 | 江 | 日野町/八雲神社 |
| ㉕ | 市 | 史 | 新上屋跡 | 一 | 江 | 日野町 |
| ㉖ | 市 | 史 | 三井家発祥地 | 一 | 江 | 本町/法人 |
| ㉗ | 国 | 国登 | 八千代玄閣棟 | 1棟 | 大~昭 | 殿町/法人 |
| | 国 | 国登 | 八千代大広間棟 | 1棟 | 大~昭 | |
| | 国 | 国登 | 八千代鶴亀棟 | 1棟 | 大~昭 | |
| ㉘ | 国 | 国登 | 見庵(旧小泉家住宅主屋) | 1棟 | 江 | 魚町/法人 |

江戸時代、松坂は商人町、宿場町として栄え、商人たちは当地の特産品であった松坂木綿を商う商人として、江戸へ進出し、全国にその名を広めた。

明治維新後、松坂は逐次和歌山県、度会県、三重県の管轄区に置かれ、明治22年には町村制の施行により「松阪町」が誕生し、名実共に商業都市として発展する。

その後、近隣の村との合併を続け、昭和8年に市制を施行した。さらに戦後、隣接村との合併を繰り返し、平成17年1月1日に現在の市域が形成された。

このような歴史を反映して、松阪市には数多くの文化財があり、平成30年1月1日現在、件数255件という多くの指定文化財を有する。その内訳は、国指定29件、国登録16件、県指定59件、市指定151件である。種別では、国指定の特別史跡本居宣長旧宅をはじめ、史跡松坂城跡、史跡宝塚古墳などの史跡と国指定の木造阿弥陀如来坐像等美術工芸品の彫刻が多くを占めている。年代的には、特に近世以降の松坂城下町成立後の文化財が多くみられる。

また、指定文化財は、史跡松坂城跡やその周辺の寺院等市街地に集中するが、海浜部から山間部まで市域全体に広く分布している。